

2026 年度通常（第 1 回）理事会議事録

1. 日 時：2026 年 6 月 13 日（土） 14：30～16：30
2. 場 所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3 階 1 会議室
オンライン会議システム ZOOM を併用での開催
3. 出席状況

出席理事 18 名
出席監事 3 名
出席オブザーバー 16 名

・ JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

理事：馬場益弘、舩澤泰隆、秋田正紀、平井昭光、安藤淳、萩原ゆき（萩原由紀子）、
古屋勇人、尾形依子、地川浩二、丹羽巧、高田明、新田肇

以上、12 名

監事：上野保、鈴木保夫

以上、2 名

・ オンライン参加（自宅）

理事：土肥美智子、鷹野淳子、吉田愛、五十川浩司、石原智央、井川史朗 以上、6 名

監事：紙谷雅子 以上、1 名

オブザーバー：浅田素之総務委員長、松田一隆財政委員長、長田美香子レディース委員長、
大垣俊朗環境委員長、加藤圭二ルール副委員長、中村和哉 ODC 委員長、栗原茂勝医事委員
長、矢部信成 AD 委員長、坂口英章指導力向上委員長、宮本貴文オリンピック強化委員長、
宮川昌久外洋安全委員長、坂口城治通信委員長、坂谷定夫参与、森田豊三参与、黒川重男、
多賀啓

以上、16 名

4. 議事の経過及び結果

対面開催と ZOOM 併用でのハイブリッド方式で開催した。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに出来る仕組みになっていることを参加者各位に確認し、議案の審議を下記のとおり開催した。

（定足数の確認）

理事 18 名中、出席者 18 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

本理事会は、任期開始後の最初の理事会につき、会長選任されておりません。審議事項 1「2026-2027 年度会長・副会長・専務理事・常務理事の選任」が可決するまで、議事進行を安藤理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、鷹野理事、五十川理事の両理事が任命された。

(審議事項)

1) 2026-2027 年度会長・副会長・専務理事・常務理事の選任 (案)

安藤理事から、馬場益弘氏の会長就任について提案があった。これまでの実績や経歴において深く貢献されており、JSAF の舵取りを担うトップとして最も適任であると発言があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

馬場会長から資料に基づき、2026-2027 年度会長・副会長・専務理事・常務理事の選任 (案) について説明があった。副会長は舩澤泰隆、土肥美智子、秋田正紀、平井昭光の 4 名、専務理事は安藤淳、常務理事は萩原ゆき、古屋勇人、尾形依子、地川浩二の 4 名とする。第 21 条 2 項に基づいて、会長を一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。また、経理規程第 6 条に基づく会計担当理事に地川浩二を兼任すると発言があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

改めて、定款 33 条に基づいて、馬場益弘会長が議長となり、2026 年度通常 (第 1 回) 理事会の開会を宣言し、議事進行を安藤専務理事に委任した。

2) 2026-2027 年度業務執行理事選定 (案)

馬場会長から資料に基づき、2026-2027 年度業務執行理事選定 (案) について説明があった。舩澤泰隆、平井昭光の副会長 2 名、専務理事の安藤淳、萩原ゆき、古屋勇人、尾形依子、地川浩二の常務理事 4 名を業務執行理事とすると発言があった

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

3) 2026-2027 年度顧問・参与・委員長・最高審判委員会・評議員選定委員 (案)

安藤専務理事から資料に基づき、2024-2025 年度顧問・参与・委員長・最高審判委員会・評議員選定委員 (案) について説明があった。

顧問については、馬場会長から富田三和子氏、中村隆夫氏に顧問に就任いただくことの推薦をいただいている。また、専門委員会委員長、副委員長、最高審判委員会委員、評議員選定委員会委員は資料の通りであるが、委員長が未定の委員会については、それぞれの委員会において、早急に委員長人事を決定いただき、改めて理事会に提案いただくことにしているとの発言があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

4) 青森国スポにおける感謝状申請

浅田総務委員長から資料に基づき、第 80 回青森国スポ大会セーリング競技感謝申請書について

説明があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

5) Sailing World Championships2027 に向けた代表選考方法の設定 /オリンピック強化 委員会 謝金支給規程(助成金活用事業)改訂

宮本オリ強委員長から資料に基づき、Sailing World Championships2027 に向けた代表選考方法の設定ならびに謝金支給規程(助成金活用事業)改訂について説明があった。

LA2028 に向けた最初の国粋獲得大会となる Sailing World Championships2027 について、WS によって出場枠制限が設けられることから、シングルハンド大会・ダブルハンド大会においてそれぞれ種目毎に下記の通り選考大会を設定した。なお、内容は今後各種目の選手等関係者との今後の協議によって変更となる可能性がある。オリンピック強化委員会の謝金支給規程(助成金活用事業)」について、選手強化 NF 事業において定められているスタッフの謝金上限に変動があったことから、一部謝金上限について上限を合せるかたちで改訂をするとの発言があった。

反対 0、保留 0、満場一致で承認された。

6) SSL ゴールドカップ 2026 「Team Japan (仮)」参戦

浜崎様から資料に基づき、SSL ゴールドカップ 2026 「Team Japan (仮)」参戦について説明があった。

SSL ゴールドカップ 2026 (2026 年 11 月ラウンド開始予定) に、日本代表チーム「Team Japan (仮)」ならびに大会レギュレーションに基づき選考するメンバー(キャプテン、マネージメント、ヘルムスマン他)を JSAF 公認チームとして参戦することを承認いただきたい。

Star Sailors League (以下、SSL) は、2013 年に設立された国際的なセーリング競技組織であり、SSL Gold Cup は、SSL が主催する「ナショナルチーム対抗」の世界選手権レベルのイベントと位置付けている大会である。各国のトップセーラーが国別代表チームとしてワンデザイン艇(SSL47)に乗り込み、1 レース 4 艇で競うノックアウト方式のシリーズで世界チャンピオン・オブ・ネイションズ(World Champion of Nations)の座を競うもので、第一回大会は、2023 年にスペインカナリー諸島で開催され、日本チームは、キャプテン浜崎栄一郎、ヘルムスマン船澤泰隆を中心にチーム構成し、1/16 ラウンドにシードされ出場した経緯があるとの発言があった。

反対 0、保留 1、賛成 17 で承認された。

(協議事項)

1) 新理事会執行体制

安藤専務理事から資料に基づき、2026 年 6 月発足新理事会執行体制について提案があった。

理事会の開催頻度は毎月開催(毎月、平日の夜開催)とする。理事会を毎月開催することによ

り、理事会における審議事項の処理の迅速化を図ることとする（但し、年 2 回（6 月評議員会開催月、1 月全国加盟団体代表者会議開催月）はリアル開催を計画）。業務執行理事は、理事会において夫々業務執行の状況を報告する。各理事は、担当する専門委員会の委員として委員会活動について関与し、理事会への委員会 報告、理事会審議付議事項の提案を行う。（4）理事会審議事項の検討に当たっては、理事会に対して担当理事が委員会作成資料の説明を行い、理事会での検討結果に基づいて次回以降の理事会へ審議事項として付議する。常任委員会は、理事会開催の 1 週間前に毎月 1 回開催する。理事会審議事項、その他緊急案件を中心に、事前検討を行なうこととする。理事会開催日程（案）（原則、毎月第 3 水曜日 19：00 から）をご確認いただきたいとの発言があった。

2）連盟英文略称追加の定款変更案（継続）

安藤専務理事から、連盟名称/呼称の英文略称の追加に伴う定款変更について、継続協議とするとの発言があった。

3）加盟団体規程（団体負担金・交付金）の見直し（継続）

浅田総務委員長から資料に基づき、加盟団体規程（団体負担金・交付金）の見直し検討状況について継続提案があった。

会費支払い手続きの My Sailing への移行に伴い、団体交付金・負担金の在り方について、常任委員会、総務委員会で議論している。団体カテゴリごとの会員数、団体交付金、団体負担金現状ならびに各加盟・特別加盟団体の団体交付金、団体負担金の状況から、現行制度では、団体負担金が少人数の団体にとって一人あたりの負担が重く、一方で交付金は一人単位の計算であるため事務作業が煩雑になっている。総務委員会を中心に変更案を複数準備し、加盟団体へのヒアリング、意見交換を実施していくとの発言があった。

（報告事項）

1）業務執行理事報告（理事の利益相反取引に関する事案、アジア大会準備状況他）

安藤専務理事から資料に基づき、業務執行理事報告があった。

理事の利益相反取引に関する事案発生の報告と理事の利益相反取引に関する理事会事前承認手続きを徹底する件については、2025 年度当連盟パラセーリング委員会が実施する事業において、理事会の事前承認手続きを経ずに、当該謝金を理事へ支給した事例が発生した。理事の立場にある者が、連盟から報酬（謝金、日当等）を受け取る場合は、本来はすべて、一般社団・財団法人法第 197 条・第 84 条（利益相反取引）に基づき理事会の事前承認が必要になります。本人も然ることながら、かかる基本的な理解が連盟全体で欠如していたことが、今回の事態を招いた根本原因と考えている。なお、2024 年 6 月から 2026 年 6 月までの期間中、他の理事による謝金・日当支給事例を 38 件 738 千円確認している。これも内容を精査の上、再発防止策の策定、実施とともに個別に対応する。再発防止策として、理事への報酬（立替実費を除く、謝金・日当等）および関係当事者取引は、全件、理事会に諮るフローに変更、なお新理事体制のもとでは、毎月の理事会

開催を予定しているので、理事会で適切に承認されたものから順次、支払い実施に努めます。また、JSAF 全体（理事、監事、評議員、顧問、参与、加盟団体、特別加盟団体、専門委員会等）を対象に、可及的速やかに、意識統一を徹底するための研修会を開催する。

愛知・名古屋アジア競技大会セーリング競技の準備状況については、JSAF 協賛企業・賛助会員の日頃の JSAF への支援に対する謝意を表するとともに、国際レベルのセーリング競技を実際に観戦いただくことにより、セーリング競技への理解を深めていただくため、アジア競技大会セーリング競技の観戦を提供する。また、NF カテゴリーのアクレディテーション登録に関する案内について発言があった。

2) オリンピック強化委員会報告

宮本オリ強委員長から資料に基づき、2026 オリンピック強化戦略について報告があった。

アジア大会代表内定選手・代表補欠選手・役員を決定した。代表選手・役員についてのJOCによる認定手続きは7月上旬を予定しているとの発言があった。

3) eSailing 委員会報告

尾形 eSailing 委員長から資料に基づき、eSailing 委員会報告があった。

第7回 eSailing 全日本選手権大会の決勝が、5月30日（土）に Japan Sport Olympic Square 会議室にて開催された。今大会は、予選シリーズ日本ランキング30位以上の選手に加え、プレイオフ・セミファイナル・グランドファイナル進出者の中からエントリーした23名による決勝戦となった。今年、日本王者のタイトルを獲得したのは、トッティ& tottexi（戸田峻斗）選手（初優勝）。歴代日本代表選手が上位を占める結果となった。また、出場枠をランキング30位以上へ拡大したことで学生選手の参加が増え、競技面・コミュニティ面の双方で大きな広がりが見られた。World Sailing主催の2026ネーションズカップ（国別対抗戦）ナショナルチームメンバー候補は、本大会上位選手から推薦するとの発言があった。

4) レディース委員会報告

長田レディース委員長から資料に基づき、レディース委員会報告があった。

「2026 江の島ウィークチャイルドルーム報告書」ならびに「女性セーラー座談会@ゆるっとオンライン女子会報告書」について報告があった

5) 環境委員会報告

大垣環境委員長から資料に基づき、環境委員会報告があった。

①明治安田×日本セーリング連盟 日本の海を未来につなげる（5月30日開催） スポーツに親しむ子どもたち60名超で、富部選手の全体講話、ハンザセーリング体験、トレーニングセッション、イノカのサンゴ礁ラボで、海の楽しさと環境の大切さを学んだ。②サステナビリティキャンペーン（補助事業完了・報告1件） K-16クラス協会の廃棄寸前の艇の修復プロジェクトが完了した。③令和7年度JOCスポーツ環境保全活動報告書を提出した。④2026年度の環境キャンペーンの補助制度の改定並びに対象レースおよび金額が決定した他、発言があった。

6) 広報委員会報告

萩原広報委員会委員長代行から資料に基づき、広報委員会報告があった。

①ウェブサイトのリニューアルについて、今年1月より事業者選定を行い、リニューアル作業に着手した。6月中に第一弾ローンチを予定している。主な変更点は、MySailing を活用したAPIによるカレンダー連携を実装ならびにWordPressを活用し、ローンチ後は各委員会の委員長がホームページへ直接アップできるようになる見込みである。②JSAFのアセット構築について、JSAFが自由に活用できる写真・映像等のアセットが十分に整備されていないことから、広報委員会では組織的なアセット蓄積の仕組みを整備している。③広報・マーケティングについては、新たな取り組みとして戦略的マーケティング活動を開始している。既存パートナーへの価値提供強化と新規スポンサーの確保を目的としているとの発言があった。

7) 2026 年度メンバー登録数 (5 月 31 日現在)

8) 2026 年度臨時第 1 回理事会議事録案 (5 月 23 日)

上記項目について、各資料に基づき、寺澤事務局長からまとめて報告があった。

以上をもって、オンライン会議システムZoomを使用し終始異常なく、議事全てを終了したので、議長は16時30分に閉会を宣した。2026年度通常（第1回）理事会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2026 年 6 月 13 日

議 長 会 長 馬 場 益 弘

議事録署名人 理 事 鷹 野 淳 子

議事録署名人 理 事 五十川 浩 司

副会長 船 澤 泰 隆

副会長 土 肥 美智子

副会長 秋 田 正 紀

副会長 平 井 昭 光

専務理事 安 藤 淳

常務理事 萩 原 ゆ き

常務理事 古 屋 勇 人

常務理事 尾 形 依 子

常務理事 地 川 浩 二

監 事 上 野 保

監 事 紙 谷 雅 子

監 事 鈴 木 保 夫